

J27b 全天 X 線監視装置 MAXI/GSC による星の観測

山崎恭平、坪井陽子、鶴澤明子、松村和典(中央大学)、上野史郎、松岡勝、川崎一義、富田洋、鈴木素子、石川真木、足立康樹、板本康治(JAXA)、三原健弘、小浜光洋、杉崎睦、中川友進、山本堂之(理研)、常深 博、木村公(大阪大)、河合誠之、森井幹雄、杉森航介(東工大)、吉田篤正、山岡和貴、中平聡志(青学大)、根来均、中島基樹、石渡良二、三好翔、小澤洋志(日本大)、上田佳宏、磯部直樹、江口智士、廣井和雄(京都大)、山内誠、大休寺新(宮崎大)、ほか MAXI チーム

全天 X 線監視装置 MAXI (Monitor of All-sky X-ray Image) は 1 周 90 分で地球を周回する国際宇宙ステーションに搭載され、2009 年 8 月の運用開始以降、全天モニターを続けている。MAXI に搭載されている GSC (Gas Slit Cameras:ガス比例計数管) は 2-30 keV の帯域に感度を持ち、この帯域の全天監視カメラとして最高感度を持つ。それにより既に 180 個を超える天体を検出している(2009 年 11 月現在、MAXI チームプレスリリース [http://www.jaxa.jp/press/2009/11/20091126\\_maxi\\_j.html](http://www.jaxa.jp/press/2009/11/20091126_maxi_j.html))。我々は、この帯域で明るい星 (CV 型, RS CV<sub>n</sub> 型, O 型, YSO など、ブラックホールや中性子星を除く) に関するモニターが有効であると考え、解析を進めており、実際既に RS-CV<sub>n</sub> 型の連星からもフレアを確認している。本講演では、これらの天体で特に明るいと思われるもののうちのどれくらいが GSC で検出でき、どのくらいが検出できていないかの現状を報告する。また、実際に検出されたものに関しては、長期的変動、特にフレアのような突発的変動や周期的変動の有無について報告する。